

つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書 (令和6年度) 2024年度

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場所	会員参加数
	9	17	月	9:00	12:30	藤小学校	10名
活動名称	藤小 流しソーメン体験協力						報告者: 吉井 優

1、活動目的

8年前から依頼されて実施している藤小3年野外学習支援を今年も依頼されました。今年6月から実施となりました。小学生が樹林地や河川の里山環境と触れ合うことで、生態系サービスを実感し、未来にむけて鶴ヶ島地域の生態系サービスを増大してくれることを期待します。

昨年担任教師の強い要望があり、市民の森の竹を使用した流しソーメンを行ったところ、子ども達に大好評となった。なお、埼玉県の教育局から特色ある体験活動の例としても紹介されました。今年も3年生担当教師からの依頼があり、流しソーメン体験会に協力した。

2、活動内容ほか

スタッフは、9時に集合し、今回使う樋づくりを行った。また、子ども達の体験活動のために、お椀づくりの竹細工作業場として、木陰に3枚のブルーシートを敷いて、竹置き台と竹ノコギリを配置した。また西側通路木陰に流しソーメンの樋を3本2組設置した。

10時過ぎに児童が集まり、お椀づくりと流しソーメンの説明をした。その後、スタッフにより流しソーメンの樋づくりを見学してもらった。

10時半ごろから竹細工体験となるお椀づくりを始め、自分の分と、保護者、教師の分まで本日使うお椀を作った。

11時15分くらいから、ソーメンを流す担当と、食べる担当に分かれ、流しソーメン体験を始めた。コロナの伝染回避のため、割りばしを大量に準備し、お椀にいっぱいソーメンを確保して、それを食べた箸は廃棄し、次は、新しい箸でソーメンを取ることににより、唾のついた箸で流れるソーメンを触らない手法を実施した。児童は、お椀二杯のソーメンを食べることができて、満足してくれたと思う。12時前に児童の流しソーメン体験は、終了し、給食時間になった。協力してくれた保護者と、我々スタッフは、残りのソーメンをたいらげ、イベント終了となった。

3、評価:

太い孟宗竹で作った樋と、真竹で作った脚を使っているため、伝統的な本物の流しソーメン体験の雰囲気があり、子どもたちに大好評であった。協力してくれた保護者も新鮮な流しソーメン体験に喜んでくれた。我々も学校の授業で流しソーメンに協力し、参加児童から笑顔で感謝されたことは、里山クラブの活動の一つの目標でもあるため、心地よい達成感を味わえた。

4、課題

80名を超える児童に竹細工の指導を行うには、スタッフの人数がすくなくすぎた。昨年は児童70名であり、父親の協力参加があり、手伝ってもらえてあわてることはなかった。今年は、11時を過ぎても、お椀づくりが終わっていない児童が数人いて、予想外であった。

なお、昨年同様35度くらいの猛暑日となったが、水道の近くに木陰が見つかり、お椀づくりも流しソーメンも木陰で実施することができた。スタッフの平均年齢を考慮すると、猛暑の炎天下では、要注意です。

<里山参加会員>

小澤邦、柳川、小沼、小嶋、杉山、佐野、吉井、石川、内藤、金

<活動写真>

